

# 「何気なく לְתַמּוֹ」

## תַּמָּה «ターマハ」のミドゥラーシュ

### ベレーシート

ターマハのミドゥラーシュのきっかけは牧師の書斎の次の記事です。

歴代誌Ⅱ 18章33節【新改訳 2017】

そのとき、ある一人の兵士が**何気なく**弓を引くと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間を射抜いた。．．．．．

これは北イスラエルのアハブ王の死の場面です。列王記を見ると、それは主が語られたとおりであったことがわかります。

「何気なく」と訳された原語は「レットウツモー」(לְתַמּוֹ)です。これは前置詞の「レ」(לְ)と名詞「トーム」(תּוֹם)からなる語彙で、トームを語根とする周辺語彙を見ると次のようなことがわかります。

「トーム」 תּוֹם 完全、潔白、誠実

(1) 「タンマー」 תַּמָּה そこに

(2) 「ターマハ」 תַּמָּה 驚く、驚くべき、恐れる

(3) 「テマハ」 תַּמָּה 奇蹟

(4) 「ターミム」 תְּמִימִם 完全に、正しく、公平に

(5) 「ターマム」 תָּמַם 完成する、終わらせる、尽きる

「何気なく」と訳された原文には決して、偶然的なことではなく、むしろ、「そこに、驚くべき、奇蹟ともいうべき神の完璧な出来事によって終わらせる」という意味が隠されているということが理解できるのです。(牧師の書斎より)

## 1. 驚く (ターマハ תָּמַח)

「トーム」 תָּוַם の周辺語彙の中から動詞の「ターマハ」 (תָּמַח) をミドウラーシユしました。ターマハは旧約聖書に9回登場します。

### (1) 初出箇所 創世記 43 章 33 節【新改訳 2017】

彼らはヨセフの前で、年長者は年長の席に、年下の者は年下の席に座らされたので、一同は互いに驚きあった。

このあと、彼らは、自分たちを飢饉から救ってくれるエジプトの宰相と思っていた人物こそ自分たちが外国に売り飛ばした弟のヨセフであったことを知ります。ヨセフはイエシュアの型です。そして兄弟たちは自分たちが十字架につけたイエシュアこそメシアであったことに驚くイスラエルの残りの者を表し、ここに、旧約の預言者を通して終わりの日に約束されているイスラエルの民族的な救い

が示されています。現在に至るまで世界中に散らされて、人間の目にはどこにいるのかもわからないイスラエルを神様は集められ、恵みと嘆願の霊が注がれることによって彼らはイエシュアこそメシアであることに目が開かれます。神様は「残りの者」というかたちでイスラエルを民族的に救うのです。終わりの日に約束されている、人間には決してできない神様の驚くべき完璧な御業です。

ターマハの登場する箇所を見ていきます。

## (2) イザヤ書 13 章 8 節【新改訳 2017】

**彼らはおじ惑い、子を産む女が身もだえするように、苦しみと激しい痛みが彼らを襲う。彼らは炎のような顔で互いに驚く。**

ここで驚くのはバビロンです。栄華を極めたバビロンが一夜にして滅ぼされるからです。イザヤが預言したように、バビロンの最期の王であったベルシャツアルは、メディア・ペルシアの連合軍によって滅びました。イスラエルを矯正するために用いられたバビロンでしたが、栄華を極め、神のようになろうとしたことで、神は一夜にしてバビロンを滅ぼしました。エレミヤを通してイスラエルに約束された「恵みの計画」がこうして実現しました。まさに驚くべき、奇蹟的な方法で神様はイスラエルを救い出されました。

続く箇所を見ると、これはそのまま終わりの日に起こることも啓示しているこ

とがわかります。

**(3) イザヤ書 13章9～12節【新改訳 2017】**

**9 「見よ、主の日が来る。憤りと燃える怒りの、残酷な日が。**

**地は荒廢に歸し、主は罪人どもをそこから根絶やしにする。**

**10 天の星、天のオリオン座はその光を放たず、**

**太陽は日の出から暗く、月もその光を放たない。**

**11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。**

**不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。**

**12 わたしは人を純金よりも、人間をオフィルの金よりも尊くする。**

神様は靈的に死んでいるイスラエルを復活させるための道具としてバビロンを用いたように、終わりの日には反キリストを立ち上がらせませす。そしてイスラエルは反キリストによる未曾有の苦しみを通して、イエシュアこそメシアであることに靈の目が開かれ救われます。最終的に、イスラエルに敵対し、イスラエルを苦しめ、この世を支配してきたサタンはイエシュアによって完全に滅ぼされ、イスラエルは本来神様が選ばれた目的であった王なる祭司として靈的に完全に復活するのです。

次もイザヤ書からです。

#### (4) イザヤ書 29章 9～11 節【新改訳 2017】

9 **驚き**、たじろげ。目を閉ざされて、盲目となれ。

彼らは酔うが、ぶどう酒のせいではない。ふらつくが、強い酒のせいではない。

10 主はあなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、

預言者というあなたがたの目を閉ざし、

先見者というあなたがたの頭をおおわれた。

11 そのため、あなたがたにとっては、すべての幻が、封じられた書物のことば

のようになった。読み書きのできる人に渡して、「どうか、これを読んでくださ

い」と言っても、「それは封じられているから読めない」と言い、

12 また、読み書きのできない人にその書物を渡して、「どうか、これを読んでく

ださい」と言っても、「私は読み書きができない」と答えるであろう。

ここで神様はイスラエルに対して「驚き、たじろげ」と言われています。

イスラエルの預言者に深い眠りの霊が注がれ、目が閉ざされ、頭がおおわれたか

らです。すべての幻が封じられた書物のことばのようになった。すなわち、イス

ラエルには神様のご計画が全く見えなくなってしまうのです。それはイスラエ

ルにとっては命取りになるほどの驚くべき事態です。「深い眠りの霊」が注がれ

て神のことばが封じられてしまうことは、真の救いを見失うという恐ろしい結

果を招くからです。

イエシュアもイスラエルの指導者たちに対して次のように嘆かれました。

**マタイの福音書 15 章 7～9 節【新改訳 2017】**

**7 偽善者たちよ、イザヤはあなたがたについて見事に預言しています。**

**8 『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。**

**9 彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教える  
のだから。』**

そして今に至るまでイスラエルの霊の目は閉じられたままです。

しかし、神様はパウロを通してここに隠されている奥義を解き明かしてくださいました。

**ローマ人への手紙 11:8～12、25～26、32 節【新改訳 2017】**

**8 「神は今日に至るまで、彼らに鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられた」と書いてあるとおりです。**

**9 ダビデもこう言っています。**

**「彼らの食卓が、彼らにとって罾となり、落とし穴となり、  
つまずきとなり、報いとなりますように。」**

**10 彼らの目が暗くなり、見えなくなりますように。**

**その腰をいつも曲げておいてください。」**

11 それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。

12 彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょう。

25 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、

26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。

27 これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である」と書いてあるとおりです。

32 神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです。

イスラエルが頑なになるのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、イスラエルはみな救われるとあります。イスラエルに深い眠りの霊が注がれ、みことばが閉

ざされてしまったのはすべての人を救うための神様の驚くべきご計画だったのです。

パウロはこの奥義を知った時に「ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。」と感嘆したのです。

次は「シオン賛歌」と呼ばれる詩篇の一つです。

#### **(5) 詩篇 48 篇 1～5 節【新改訳 2017】**

**1 主は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。**

**主の聖なる山 私たちの神の都で。**

**2 高嶺の麗しさは 全地の喜び。北の端なるシオンの山は大王の都。**

**3 神はその都の宮殿で ご自分を砦として示された。**

**4 見よ 王たちは集って ともどもにやって来た。**

**5 彼らは 見ると驚き おじ惑い 慌てた。**

シオンはエルサレムの別名です。かつてそこにダビデは契約の箱を安置する幕屋を設置し、ソロモン神殿が建てられました。そこはアブラハムがイサクを全焼のささげ物として献げた場所であり、イエシュアが十字架につけられた場所であり、イエシュアがやがて地上再臨される場所でもあります。シオンは「聖なる



山」「大王の都」「神の都」とも呼ばれます。そこは「麗しさの極み」「全地の喜び」「神の住まい」として神ご自身が選ばれた場所、神のご計画の中心です。神はシオンを祝福の基として、そこから全世界に祝福を注がれます。やがて、シオンが神の都として全世界の中心として再建されるべき時が来ます。

1948年のイスラエル建国はその歴史的な証であり、神の救いのご計画が完成に近いことを示す出来事です。建国されたとはいえ今はまだイスラエルは霊的に死んでいますが、やがてイスラエルが霊的に復活し、シオンが再建される時、すべての国々が神の王国に包み込まれることが預言されています。

今は世界の中心とはだれも思わないエルサレムが世界の中心になる「その日」、神様のご計画を知らない諸国の王は驚き、おじ惑い、慌てるのです。

以上、動詞ターマハを追っていくと、トームの周辺語彙から見えたとおり、神様が驚くべき、奇蹟のような完璧な出来事によって歴史を完成へと導いておられることを見ることができました。

## 2. 奇蹟 (テマハ תִּמְחָה)

次に、奇蹟という意味の「テマハ」(תִּמְחָה)を調べると、旧約に三回、すべてダニエル書に使われていることがわかります。

## ダニエル書 4章 2～3 節

2いと高き神が私に行われたしるしと**奇跡**を知らせることは、私の喜びとする  
ところである。

3そのしるしのなんと偉大なことよ。

その**奇跡**のなんと力強いことよ。その国は永遠にわたる国、

その主権は代々限りなく続く。

これはバビロンの王ネブカドネツアルがイスラエルの神をほめたたえることば  
です。捕囚としてダニエルとともにバビロンに連れてこられたシャデラク、メシ  
ヤク、アベデ・ネゴはネブカドネツアル王が建てた金の像を拝まなかったために  
火の燃える炉に投げ込まれますが、主によって救い出されます。ネブカドネツア  
ル王は三人の主に対する忠誠と、彼らに対する主の奇蹟的な守りを目の当たり  
にして、イスラエルの神をほめたたえているのです。

それまでイスラエルを苦しめてきた異邦の王がイスラエルの神を賛美している  
のです。

「テマハ」(תְּמַחַ) はすべてネブカドネツアル王がイスラエルの神をほめたたえ  
ている中に使われていました。

これは終わりの日に、反キリストによる大患難から救い出されるイスラエルの  
残りの者によって救われる強い国々、多くの国民を表していると思いました。イ

イスラエルに接ぎ木されるのは教会だけではなく、最後に救われる強い国々、多くの国民もまた、イスラエルにしがみつくように接ぎ木されることを今週、マラキ書の礼拝メッセージから学びました。

以下礼拝メッセージからの引用です。

メシア王国では「主の名が国々の間で偉大となり、すべての場所で、主の名のためにきよいささげ物が献げられ、香がたかれる」だけでなく、「すべての国々がイスラエルを幸せ者と言うようになる」とあります。・・・

神の選民の姿を見た多くの国の民、強い国々が「エルサレムで主を尋ね求め、主の御顔を求めるためにやって来る」のです。イスラエルの残りの者がメシアに出会ったときに放つ輝きは、世界中の多くの国々の人々をメシアへと導く吸引力になるようです。彼らの悔い改めは復活中の復活と言われるほどのものなのです。かつて主が約束したように、「地のすべての国民は彼（アブラハム）によって祝福される」ということが文字通り実現されるのです。（マラキ書からの礼拝メッセージより）

世界中に散っていたイスラエルが集められ、靈的に復活することも、復活したイスラエルが歴史の最後に王なる祭司として、それまで敵対し、自分たちを苦しめてきた強い国々、諸国の民に御国の福音を伝えることも、それによって短い時間

に数えきれないほどの大勢の異邦人が殉教と引き換えにいのちを得ることも驚くべき（「ターマハ」 תַּמְחָה）神様のご計画です。まさに奇蹟（「テマハ」 תִּמְחָה）のような完璧な（「ターミーム」 תִּמְיִם）ご計画によって、最後の救い、贖いが完成する（「ターマム」 תַּמְּם）のです。

さらに、最後に全イスラエルが果たすべき王なる祭司としての務めが回復されて大勢の異邦人に主の救いをもたらすことによって、今も続くユダヤ人と異邦人の間に根深く横たわる問題も解決されます。

それは、「わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが**完全に一つ**（「タンミーム ベエハード」 תַּנְּמִיִם בְּעֵהָרֵד）になるためです。」（ヨハネ 17 : 23）というイエシュアの祈りが成就することです。

## ベアハリート

ハバクク書にはつぎのようにあります。

### ハバクク書 1 章 5～6 節

5 「異邦の民を見、目を留めよ。

驚き、たじろげ。

わたしは一つの事を あなたがたの時代に行うからだ。

**それが告げられても、あなたがたは信じない。**

## **6 見よ、わたしはカルデア人を起こす。・・・」**

ここにはターマハが二つ重ねられています。イスラエルにとって彼らの矯正のためにバビロンが用いられるとは驚きたじろぐこと、信じがたい、受け入れがたいことでした。

神様のなさることはいつの時代も人の目には驚き、たじろぐようなことであり、人が聞いても信じがたい、受け入れられないことなのかもしれません。

しかし、私たち教会は歴史に起こるどんな驚くべきことの中にも神様のご計画を見ることができます。なぜなら、神様がイエシュアの一連の贖いによって私たちの霊を生き返らせ、私たちの霊の中に内住してくださったことによって御国の福音を悟ることができるようにしてくださったからです。

ですから、私たちは驚くことなく、恐れたじろぐことなく、教会の完成である携拳を待ち望みつつ、いつも神様が見ておられるご計画の完成、新しいエルサレムを見つめて歩むものでありたいとあらためて思わされました。

2023. 9. 21

木曜 A.C. 村上京子